

リハビリテーション科

■ 診療科長 帖佐 悦男

■ 研修実施担当者 鳥取部 光司



教育施設として認定を受けている学会

日本リハビリテーション医学会、日本整形外科学会、日本リウマチ学会、日本脊椎脊髄病学会

診療科の概要

リハビリテーション科は、運動障害、認知障害を横断的、総合的に診て、病気や外傷の結果生じる障害を医学的に診断治療し、機能回復と社会復帰を総合的に提供する専門領域です。その業務は、疾病や障害の診断・評価・治療、リハビリテーションゴールの設定、理学療法、作業療法、言語聴覚療法、義肢・装具等の処方、運動に伴うリスクの管理、リハビリテーションチームの統括、関連診療科との連携など多岐に渡っています。

また疾病以外にも、高次脳機能障害支援ネット

ワークの整備、国体選手の帯同、選手のメディカルチェック、小中学校における運動器検診、少年野球検診、ロコモ予防事業等を行っております。

このように地域に根差した医療を行うとともに宮崎を世界に発信できるようにしたいと考え、日々研鑽に励んでおります。また、地域医療施設として老健施設を備えた宮崎大学宮崎市立田野病院にて在宅リハ（訪問、維持期支援など）、地域包括ケアを担うリハ診療を行っております。

研修症例の特徴

本院の特徴は、専門医取得のための疾患全ての研修が本院のみでできることです。対象となる疾患・障害は幅広く、脳卒中、外傷性脳損傷、脊髄損傷、骨関節疾患、関節リウマチ、切断、神経・筋疾患、小児疾患、呼吸器疾患、心疾患、がんなど、研修医はすべての症例を研修することができます。

患者さんとご家族に対して、医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、医療ソーシャルワーカーなどのリハビリテーションチームが連携を図り、できるだけ早期に住み慣れた地域で最良の生活が営めるよう、安全で質の高いリハビリテーション医療の提供に努めています。

研修目標

【一般目標 (G10)】

診察・診断・治療を通じて医師としての心構え、患者および家族・スタッフへの関わり方、疾患に対する取り組み方などを身につける。リハビリテ

ーション科領域についてはリハビリテーション医学の概念を理解し、基本的な考え方、知識、診断、医療技術を身につける。

【個別行動目標 (SB0s)】

- 診断に必要な情報が得られるような的確な医療面接ができる。
- 指導医のもと診察を行いそれぞれの所見について理解できる。
- 医療面接、身体所見から得られた情報をもとに必要な検査の判断ができる。
- 生活機能（心身機能・活動・参加）の評価ができる。
- 理学療法・作業療法・言語聴覚療法の適応を判断し処方ができる。
- 義肢装具の適応判断および処方・適合判定ができる。
- 電気診断学を適応に基づき安全に実施できる。
- 社会復帰に向けての患者・家族指導ができる。
- リハビリに関与する他の医療スタッフと協調したチームアプローチができる。

研修方略

【指導医および指導体制】

指導医は、全員リハビリテーション科専門医を取得しており、数多くの症例を経験しています。後期研修は、原則として大学及び関連施設にて研

修することによって、幅広いリハビリテーション科の知識と技術を持ったリハビリテーション科専門医の育成を行います。

【勉強会やカンファレンスなどの研修教育活動】

カンファレンスは週1回あり、入院中の患者の症例についての検討が行われます。病院内の全体のカンファレンスは月1回あります。また、整形外科における各グループのカンファレンスにも参加が可能です。

カンファはそれぞれの症例について、各担当スタッフがプレゼンテーションを行い全員で検討して、方針の決定を行います。問題のある症例に対しては経過報告等を行います。

また、学会報告や研究報告について随時その内容について全員で協議します。

1年においては宮崎リハビリテーション研究会・日本リハビリテーション医学会・九州地方会などリハビリテーション科の最新の知見を得る機会や研修によって学んだことを発表する機会などが数多く有ります。

【週間スケジュール】

	午前	午後	田野病院/老健施設
月	外来	合同カンファレンス グループカンファレンス(下肢グループ) グループカンファレンス(スポーツ・上肢グループ)	外来・病棟回診(午後)、 イブニングレクチャー(医局)
火	回診 外来	高次脳機能	病棟診療、訪問(往診)、 嚥下・痙縮外来(リハ科特殊外来)
水	外来	装具外来 他各種検査 グループカンファレンス(脊椎グループ)	外来、医局カンファレンス
木	外来	検査・測定 術前カンファレンス	病棟診療、訪問(往診)、リハ病棟回診 リハ特殊検査、治療(BTX・嚥下検査)
金	リサーチカン ファレンス 外来	カンファレンス 医局会 回診	モーニングレクチャー(リハ)・外来・

研修評価

- オンライン卒業臨床研修評価システム(EPOC)による研修実施内容の評価(観察記録)
- 臨床実習内容に基づいて指導医が評価する。また、スタッフも研修医の態度評価を行う。

指導医・先輩医師からのメッセージ

リハビリテーションにおける治療は、機能障害そのものへのアプローチと代償的アプローチがあり、新たな領域や可能性が拡大しており、我々は日々診療・研究・教育を行っています。

対象となる疾患は、脳疾患や骨関節疾患に加え、呼吸器疾患、循環器疾患、メタボリックシンドローム、がん、など多岐にわたっており、年齢も小児から高齢者まで幅広く、とてもやりがいがある診療科です。

また、老健施設を備えた宮崎大学宮崎市立田野病院においては、高齢者医療を軸にリハビリテーション全般の実践的研修や、地域包括ケア：病院から施設～在宅を支えるリハ医療のマネジメントなど、オールラウンドのリハ医育成の研修ができます。

研修で学んだリハビリテーション科の考え方、手技や診断学はきっと医師としての将来役に立つものになると思います。